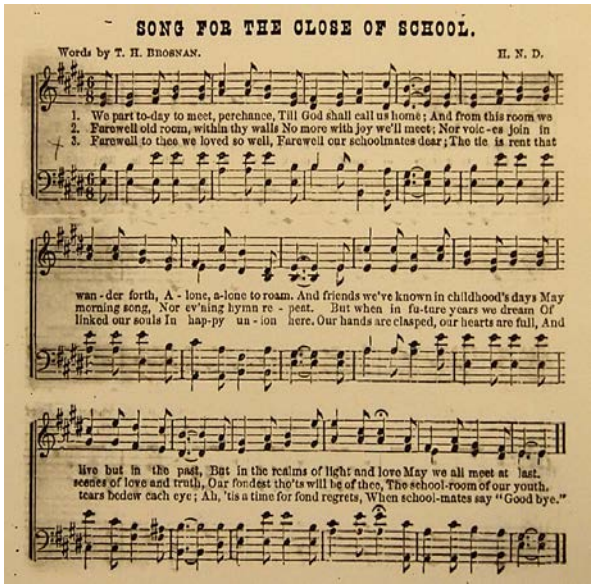
News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
NewRochelle, NY 10801
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成27年　2月27日　No.22
発行責任者：校長　櫻井郁男

卒業式の歌

停電時の報告に「蛍雪の功」を引用しました。
今回は卒業式を前に、かつて式歌として定番であった「仰げば尊し」と「蛍の光」について紹介させていただきます。



"Song for the close of school" (page 141) in "Song Echo" by H.S. Perkins (1871)

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%B0%E3%81%92%E3%81%B0%E5%B0%8A%E3%81%97 より

私くらいの世代はふたつの歌を送辞・答辞に絡めて唄いました。時代が進み、まず「仰げば尊し」が教育現場から姿を消していきました。理由はいろいろあるのでしょうが。「児童・生徒に **仰げば尊し** と唄わせることへの教師自身の抵抗感」という解説が真実なら、残念なことです。
かつて勤務した学校では生徒たちが「仰げば尊しを歌いたい」と申し出てきました。子供たちと、このような関係を結ぶことができたと知ったとき、3年間ともに過ごした教員にとって、この上ない喜びであり、これからも子供たちに、心から唄ってもらえるような教員でありたいと強く思いました。
この便りを書くために、歌にまつわる歴史的背景を調べていくと、大変興味深いことが分かってきました。左の楽譜をご覧下さい。日本独自の歌ではないこと　が分かります。

さて、「ほたるのひかり」が唄われなくなってきたわけは、巣立ちにふさわしい曲がたくさん生まれてきたことや、歌詞の後半部分に配慮すべき内容が含まれていたからだと想像しています。
今年度、「卒業式のしおり」を作成する際に、事務所では従来の「式次第」に掲載している歌詞を漢字表記に直すか否かで補習校としての立場を踏まえ検討を重ねました。そして、幼児部から高等部の生徒、さらに保護者の皆さんの目にも触れることを意識して、なるべく原歌詞の漢字表記といたしました。
いかがでしょうか･･･子供の頃に覚え、現在も空で唄える皆様におかれましては、ご自分の解釈と漢字が一致しておりますでしょうか。
「すぎの戸を」はなぜ「かな」なのでしょう。

ほたる　ひかり　まど　ゆき	蛍の光　窓の雪
ふみよむ　つきひ　かさ	書読む月日　重ねつつ
いつ　とし　と	何時しか年も　すぎの戸を
あ　けさ　わか　ゆ	開けてぞ　今朝は　別れ行く
と　ゆ　かぎ	止まるも行くも　限りとて
かたみ　おも　ちよろず	互に思う　千萬の
こころ　はし　ひとこと	心の端を　一言に
さき　ぱか　うと	幸くと許り　歌うなり

ちなみに、君が代の「いわお」は「国歌」としての詩では、ひらがな表記となっています。